

街に介入する芸術 その公共性の議論を促す

Hiroshima Arts & City Hive

メディアーター 養成プラットフォーム

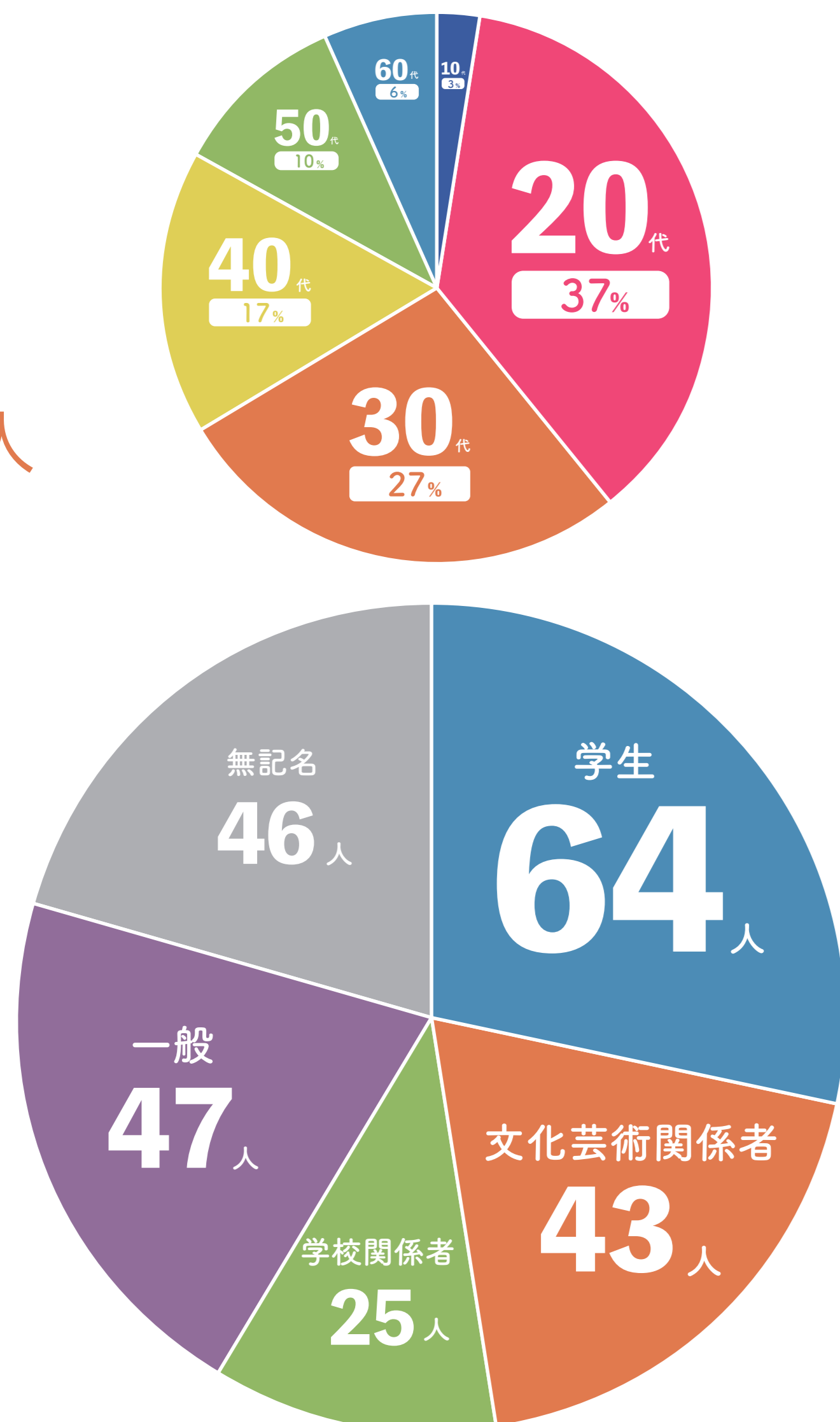
メディアーターは仲裁・調停を意味する言葉で、欧州では文化（アート）メディアーターが芸術と市民とのつなぎ手の役割を担っている。市民に向けた芸術プログラムの企画・運営からワークショップのコーディネート、エデュケーション、情報発信まで広い活動に関わる。

育成対象者

令和4年度、5年度
受講者総数

225人

20代の学生や30代を中心としたアーティストやギャラリストなど文化芸術関係者、40・50代の教員や行政や企業で地域での取り組みを担う人材など、幅広い背景の人々の参加がある。また、50・60代のボランティアでまちおこしに携わる方々など地域での文化芸術活動の支援者として積極的学びを深めている。



育成の意義

市民と美術家の活動をつなぎ支えるマネジメント人材の育成

広島市は、市民の自発的な平和文化芸術を育み、広島市立大学は、広島内外で活躍する美術家を輩出してきた。それでも市民の活動と美術家の活動をつなぎ支えるマネジメント人材が根付きにくい現状がある。公共芸術を通じた創造都市づくりの国際的現状と地域の歴史を学びながら、街に介入する芸術のキュレーション力、過去を未来につなげるアーカイブ・情報発信力、都市介入の協業実践力の底上げを目指す。その取組を、次世代を担う学生や将来の芸術経営人材に継承し引き渡すことを目標にする。



令和4年度取り組み・成果

本事業の社会的還元状況として、さまざまなプログラムを開催したことで県内外からの期待が集まり、相談の声や一定の注目を得ることができた。それにより、新たな文化芸術の仕組みづくりを目指す団体との今後の連携が見込まれる。講座に参加した受講生の満足度も高く、各方面から期待されているが、それに応じる運営側の力不足も明らかになった。

地域での芸術祭をリブランディング

横川地区（広島市西区）では、市営店舗をリノベーションして作られた「AIR Hiroshima Gallery」、「横川ベース」を講座の会場として活用することで、地域のまちおこし人材と美術に関心がある学生との連携が進んだ。また、地域での小さな芸術祭にあわせて、駅前の三角広場での彫刻の一時的な設置や、店舗に平面作品展示などを行った。芸術と市民をつなげるようなインフォメーションやギャラリーツアー、メディアーターツアーを実施したことで、いくつかの企業や行政からの期待を得ることに繋がった。それによって、横川地域では、地域での芸術祭をリブランディングする動きが進み、美術家がエリアマネジメント連絡協議会へ参加するなど、受講生による自発的な取り組みが促進された。

広島文化芸術の歴史を考え直す機運が醸成

芸術文化の歴史の再検証やアーカイブについては着手したばかりであるが、広島文化芸術の歴史を考え直す機運は醸成しており、それに向けたインタビューやアーカイブの方法についての理解が深まっている。例として、広島のアート情報を掲載するウェブサイト「Hiroshima Art Scene」が記事の発信・編集体制を見直し、大きな目標に向けて進もうとしている。

建築家と美術家との協業の可能性を広げる

横川地区では、国際的な街に介入する芸術についての状況を共有・議論するシンポジウムを実施した。基町（広島市中区）では、講師の建築家とまちづくりの課題、その解決のためのワークショップを行ったことにより、建築家と美術家との協業の可能性を広げることができた。



HACH 広島芸術都市ハイヴとは、広島市立大学が文化庁の大学における文化芸術推進事業の助成を受けて、芸術と地域との繋ぎ手を担う人材を養成するための組織。
蜂が協業して一時的に巣を創りあげるように、私たちは空きスペースを見つけて場所づくりを創り、芸術実践の可能性を広げていきたいと考えている。

石谷治寛（国際学部准教授）
河田百代、手嶋嘉丸、片島蘭（芸術学部 非常勤特任教員）
並川詩織、森美鈴（社会連携センター臨時職員）

- 01 HACH Meet**: 作品を鑑賞しながら対話をひらく
- 02 Open Dialogue Through Arts**: さまざまな美術館で対話型鑑賞を実践し、地域の芸術資源の鑑賞体験を深め、教育関係者を主な受講対象とすることで、その教育下にある中高生の鑑賞機会の充実につなげることを目指す。
- 03 Talkings To Public**: THE POOL 企画書をねってアイデアを人につたえる
- 04 Art Proposal Meeting**: 具体的な場所を想定した展示プランの作成を通して企画力を向上させる。さまざまな展示プランを企画し、議論する機会をつくることで、現代アートにおける芸術文化への多様なアクセスのアイデアについて学ぶ。
- 05 Hiroshima Art Story**: 地域文化の歴史をひもとき物語をつむぐ
- 06 Hiroshima Artist Gallery Archives**: 広島市内近郊で行われてきた文化活動について当事者へのインタビューを行い、インタビューの流れ、記事の校正・編集・発信について学び、ウェブサイト「ひろしまアートシーン」にインタビュー記事を掲載する。
- 07 Start Up the Database Management**: 過去を調べ保存し未来につなぐ

- 短期目標: メディアーター人材育成
- 中期目標: 芸術実践を学ぶ講座の開設
- 長期目標: カタログ Hiroshima の構築

地域と芸術のつなぎ手となるメディアーターの存在やその多様な活動について一般に十分に認知されていない。さまざまな現場で活動している人々が、共同でまちの課題や歴史について学ぶ取り組みを進めることで、地域社会に開かれた芸術とそのつなぎ手が活動しやすい場の創出を目指す。地域や企業、施設などの都市の課題に対する芸術の需要に応え、新しい発想の提案のための調査を担い、実践や連携をサポートするプラットフォームを構築する。

広島市立大学の社会連携センターは、広島県内のさまざまな地域からの相談を受け、共創の取り組みを行っている。その時に、創作者だけでなく、地域との連携を行う運営面での学びもできるようなプログラムを構築していく。あわせて大学院のカリキュラムでも「批評的キュレトリアル特講（仮）」のような現代的な芸術実践を学ぶ講座の開設を行う。また学部の高学年の授業で、専門的な実技に加えて、地域課題の実践に取り組めるような将来構想を目指していく。

1894 軍都広島 被爆復興の都市ヒロシマ

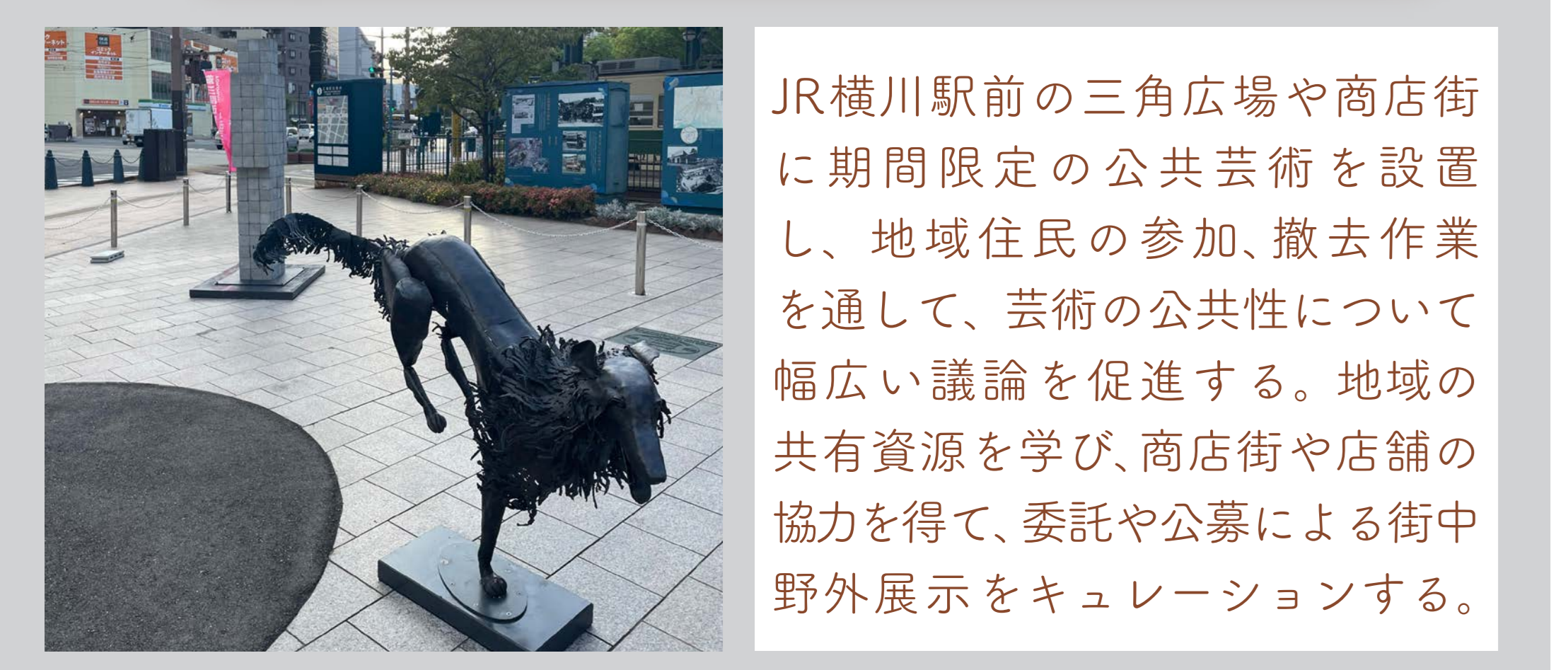
1945 原爆投下

1994 広島市立大学

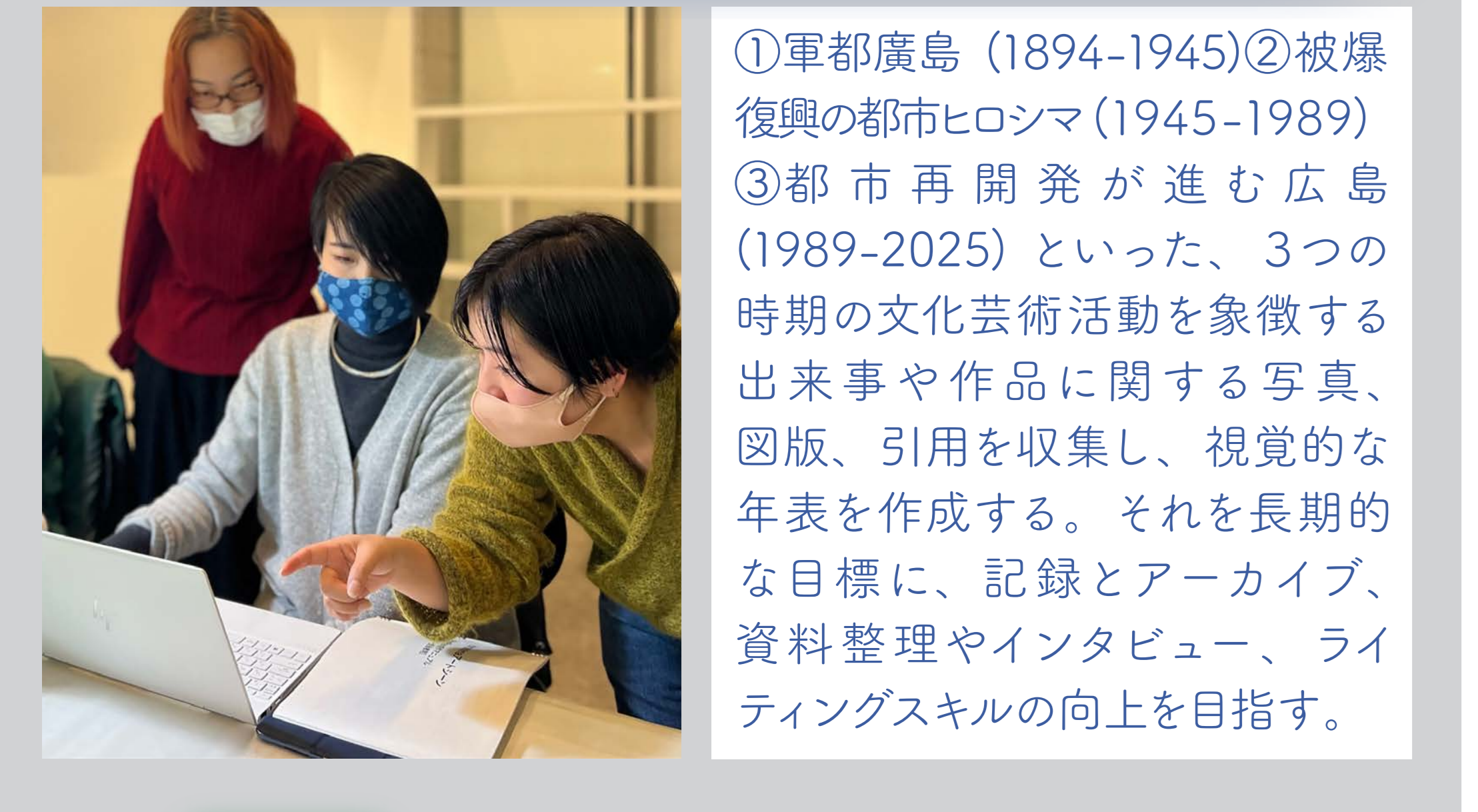
2022 広島駅改装完了

2025 被爆100周年

1 街に介入する芸術のキュレーション力 (アン)モニュメントプラットフォーム



2 過去を未来につなげるアーカイブ・情報発信力 カタログ Hiroshima 1894-2025



3 都市介入の協業実践力 都市介入ワークショップ

